



2017年2月15日

NAFTA と米墨の所得格差

公益財団法人 国際通貨研究所
 経済調査部 上席研究員 森川 央

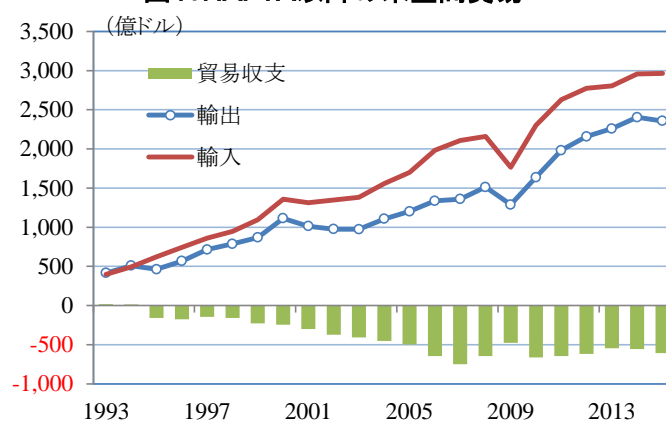
トランプ米大統領は13日、カナダのトルドー首相との会談後の共同記者会見で、メキシコとの関係が「極めて不公平だった」と強調、北米自由貿易協定（NAFTA）の再交渉はメキシコとの関係の見直しが中心になる考えを示した。

トランプ大統領は就任前から NAFTA を「最悪のディール」と表現するなど繰り返し批判している。同氏の不満は、NAFTA により廉価なメキシコ製品が流入した結果、米国の雇用が失われたという認識に基づく。

米商務省によると、NAFTA 調印の前年である 1993 年のメキシコへの輸出額は 416 億ドル、輸入は 399 億ドルで 17 億ドルの黒字だった。22 年後の 2015 年、輸出額は 5.7 倍の 2,357 億ドルになったが、輸入は 7.4 倍の 2,964 億ドルに増加したため、対墨収支は 607 億ドルの赤字になった。

メキシコが NAFTA の恩恵を受けていたことは間違いない。そして、貿易収支を勝ち負けの結果であるかのように読めば、メキシコは 17 億ドルの負け越しから 607 億ドルの勝ち越しに転じた。米国からみると、NAFTA のせいで対メキシコ貿易赤字が膨らんだことになる。

図1: NAFTA以降の米墨間貿易



(資料) 米商務省統計を基に国際通貨研究所作成

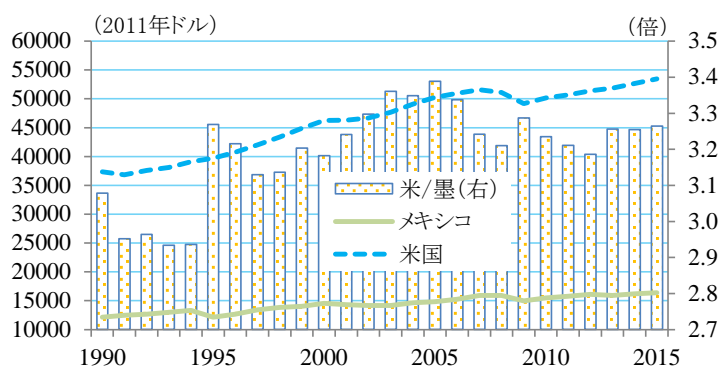
しかし、これにより米墨間の所得格差は縮小したのか？メキシコ国民の稼ぎはアメリカ国民より早いペースで増えたのだろうか？

図 2 は購買力平価で換算した米国とメキシコの実質一人当たり国民所得を比較したものだ。これによると、1993 年の米国の実質一人当たり国民所得は約 38,100 ドルで、メキシコ（約 13,000 ドル）の 2.93 倍であった。

そして 2015 年は、米国 53,400 ドル、メキシコは 16,400 ドルで、倍率は 3.26 倍に拡大している。つまり、両国間の所得格差は縮小するどころか拡大していたのである。

米国の中西部の白人層の不満が昂じているのは事実だ。だが、その不満は国内の所得分配に由来するものであり、外国（メキシコ）にぶつけるものではないだろう。トランプ大統領のメキシコ叩きは典型的なポピュリスト政策と言わざるを得ないだろう。

図2: 米墨の一人当たり国民所得



(注)購買力平価で換算

(資料)世界銀行統計より国際通貨研究所作成

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。